

泊まってマタギ体験

冬に眺める山あいの星空

北秋田市の第三セクター・マタギの里観光開発（仲澤弘昭社長）が指定管理する同市阿仁打当の「打当温泉 マタギの湯」。資料館の見学や体験活動を通じて阿仁地区が発祥

の地とされる伝統的な狩猟文化「マタギ文化」を学び、夜には山あいに光る星を眺められる。1999年に打当温泉と資料館に併設する新館が建てら



阿仁地区のマタギ文化を発信している打当温泉マタギの湯（同市阿仁打当）

「マタギの湯」

れ、「マタギの湯」としてリニューアルオープン。源泉掛け流しの温泉や、本館と別館に和、洋室計18部屋を備える。マタギの里として知られる阿仁地区の文化を発信し、マタギの生活にふれることができる宿に県内外から観光客が訪れる。

夕食ではクマ肉やウサギ肉を使用した鍋や、山の恵みを生かした料理など、食の魅力が満喫できるのも特徴。国の構造改革特区として認定され、地元のコメと森吉山の伏流水を使って昔ながらの製法で作るどぶろくも好評で、どぶろくを飲むために宿泊する人も多いという。

北秋田発 星空の宿



「マタギ小屋」からの星空鑑賞を勧めている

資料館では、装束や狩猟道具などマタギに関わる資料の数々を展示している。現役マタギらの協力を得て実施する「マタギ学校」では、座敷で狩猟の体験談や風習などを聞く講座や、冬期間のかんじき歩き、雪中鍋などのコースを用意し、体験を通じて地域の文化を知る機会を設けている。星空鑑賞スポットとして、



星空山プランの「星空料理」と樽桶セット（提供＝やってみよう！北秋田）

駐車場にある「マタギ小屋」を設定。小屋は狩猟の際に寒さや飢えをしのぐために利用したとされる拠点を再現したもので、中にはクマの毛皮やまきなどが置かれている。「冬の山中で夜を過ごす際に眺めた星空」をイメージし、マタギの暮らしに思いをはせながらの鑑賞体験をPRしている。

仲澤社長は、「マタギ文化を知るとともに、山あいをくぐって見える星を楽しんでほしい」と話す。春、夏は施設周辺が暗くなるまで時間を要するため、冬至の前後3カ月（9月～翌年3月）はゆっくり眺めることができるという。空気のきれいな秋や冬に見に来してほしい」と呼び掛けている。

星空山プラン（1日2組限定）は星形の食材を使った「星空料理」を提供するほか、地元土産品の樽桶セットや天体望遠鏡を無料で貸し出す。大人2人（和室）で1人1万4300円から。現在は新型コロナウイルスの影響で本館のみ営業。プランの詳細はマタギの湯（☎0186・84・2612）。